



ダンスカフェサロン in あうるすぽっと 2017

現代舞踊学セミナー《後期》

全6回・各回120分(休憩有)・開場は開講の30分前

21世紀のダンス地図はめまぐるしく変化しています。20世紀においては、ロシア、フランス、アメリカ、英国、ドイツが世界のダンスシーンをリードしてきましたが、世紀末からは確固たる中心が消滅、多様化するダンス表現のなかでイスラエル、オランダ、ベルギー、カナダさらには北欧、東欧などからも個性的な振付家やカンパニーが台頭してきました。前期ではアメリカ、フィンランド、イスラエルをテーマに取り上げました。この後期では「衣裳デザインから作品を観る魅力」「ローザスから最近のシェルカウイまでベルギーダンスの魅力」「ダンス、演劇の垣根を超えた21世紀の舞台芸術における身体」を取り上げます。現代舞踊の魅力ジャンルを超えて紹介します。

Dance Geography

ダンスカフェサロンは3年目。過去のセミナーではフランス・カナダ(ケベック州)・ドイツをテーマに海外のダンスシーン及び、国内のダンスアーカイブ(舞踊史)を取り上げて参りました。今回は、前期：舞踊評論家による「ダンスのジオグラフィー」を意識したシリーズ講座(8月・9月・10月)、後期：デザイナー、プロデューサー、演劇批評家をゲストに「ダンスの観方、読み方」講座(11月・12月・2018年1月)の全6回開催致します。

会場：あうるすぽっと3階 会議室A
料金：500円 定員：30名(予約優先制)
企画：ダンスカフェ <http://www.danceartcenter21.com>

お問合せ・ご予約：ダンスカフェ
dancecafe-21@krb.biglobe.ne.jp
Tel.03-3975-6405



件名「ダンスカフェサロン2017申込」

- ①ご参加講座の日程
- ②お名前(ふりがな)
- ③ご連絡先(電話またはEmail)をお知らせください。

前期「ダンスのジオグラフィー」

- 1 8月12日(土)16:00
「アメリカンダンスの系譜：モダンとポストモダン」
講師：石井達朗(舞踊評論家)
ゲスト：折原美樹・加藤みや子
- 2 9月23日(土)15:30
「フィンランドのコンテンポラリーダンス：その魅力と進化」
講師：立木燐子(舞踊評論家・ジャーナリスト)
- 3 10月14日(土)19:00
「謎多きダンス大国イスラエル：その秘密を探る」
講師：乗越たかお(作家・ヤサくれ舞踊評論家)

後期「ダンスの観方、読み方」

- 4 11月11日(土)19:00
「踊る衣裳～スーパー歌舞伎からパリ・オペラ座まで～」
講師：芳賀直子(舞踊史研究者)
ゲスト：毛利臣男(表現者)
- 5 12月9日(土)19:00
「ベルギーダンス：ローザスを中心にその魅力を語る」
講師：佳手美美(舞踊評論家)
ゲスト：前田圭蔵(プロデューサー)
- 6 2018年1月20日(土)16:00
「ダンスと演劇 — 身体と歴史」
講師：竹重伸一(舞踊批評家)
ゲスト：鴻英良(演劇批評家)



東京メトロ有楽町線「東池袋駅」6・7番出口より直結
JR他「池袋駅」東口よりグリーン大通り西進徒歩10分
都電荒川線「東池袋四丁目駅」より徒歩2分
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-5-2
ライズアリーナビル3F
TEL.03-5391-0751
<http://www.owlspot.jp>

※敬称略 ※受付開始30分前
※講師、ゲスト、日時等、一部変更する場合がございます。

{第4回} 11月11日(土)19:00開講

「踊る衣裳～スーパー歌舞伎からパリ・オペラ座まで～」

講師：芳賀直子(舞踊史研究家)

ゲスト：毛利臣男(表現者)

1992年のパリ・オペラ座『白鳥の湖』のビジュアルの鮮烈さには忘れがたいものがあります。続いて「Bayerisches Staatsballett(通称「ミュンヘン国立バレエ団」)の『ラ・バヤデー』の1998年初演の美術・衣裳は今もなおバレエ団において大切にされ使用されています。

「スーパー歌舞伎」で話題になった毛利臣男氏の衣裳デザインの仕事を通して、特に舞台芸術とダンスという視点から語っていただきます。

パリ・オペラ座でのパトリック・デュボン、マリー＝クロード・ピエトラガラといった輝かしいスターたちとのエピソードも交えて、その活動について、舞台衣裳デザインへの思い、またそのクリエイションの深淵にも迫ります。

講師：芳賀直子(はが・なおこ) 幼い頃からバレエに関心を持ち、大学でバレエ・リュスに出会って以来、バレエ史研究を続けている。今の舞台を見ないと歴史も見えてこないという信条の下、年間約200本の舞台を見続け、各種媒体での執筆、講演、展覧会監修等を行っている。また、独特の語り口による講演の人気も高い。大正大学各員准教授、JaDafo会員、新国立劇場バレエ研修所、KBallet TTCバレエ史講師等もつとめている。著書多数。「バレエ・ヒストリー～バレエの誕生からバレエ・リュスまで～」、世界文化社がバレエ関連では最新刊。趣味が高じた「祇園祭の愉しみ～山鉦と御神輿をめぐる悦楽～」(PHP出版)を6月上梓。

{第5回} 12月9日(土)19:00開講

「ベルギーダンス、ローザスを中心にそのパワーを語る」

講師：佳手美美(舞踊評論家)

ゲスト：前田圭蔵(プロデューサー)

1980年代からヤン・ファーブル、ヴィム・ヴァンデケイビュス、アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル&ローザス、アラン・ブラテルなど多くの振付家が登場。そしてジェローム・ベルやシディ・ラルビ・シェルカウイが登場してきます。ゲストの前田圭蔵が、世界のダンスシーンを牽引するローザスを中心に、プロデューサーの眼でベルギーダンスの魅力を語ります。

講師：佳手美美(かて・ふみ) パリ第8大学演劇・映像学科博士過程DEA修了。パリ在住より雑誌にパリの公演・コンサートを執筆。フランスでシモーン・フォルティ、カロリン・カールソン、マース・カニングハムら振付家のワークショップに参加。批評活動とともに『ダンスの現場から』を主宰。マース・カニングハム、ピナ・バウシュ、ウィリアムズ・フォーサイスら振付家自身が創作活躍を語るフォーラムをプロデュース。またこの『ダンスの現場から』では彼らのワークショップ、写真展など主催。演劇分野ではヤン・ファーブル、美術の分野ではアーティスト・イン・レジデンス、音声メディアでは衛星放送のSLGIGAのフランスを紹介。クリエイションとコラボ制作の意味を引き出し、振付家の言葉を伝えることをプロデューサーとして手掛ける。

{第6回} 2018年1月20日(土)16:00開講

「ダンスと演劇—身体と歴史」

講師：竹重伸一(舞踊批評家)

ゲスト：鴻英良(演劇批評家)

演劇批評家の鴻英良は日本初来日公演時のピナ・バウシュとの決定的な出会いを経験し、ダンス批評家とは違う歴史的・社会的な視点からダンスについても多くの文章を書いています。

6月に大野一雄や室伏鴻について論じた「虚体、死体、そして〈外〉へー二一世紀のダンスの理念に向けて」という論考を、雑誌「ゲンロン」5号に発表したばかりの鴻氏に、日本のコンテンポラリーダンスやダンス批評の問題点について問うと同時に「ダンス」「演劇」の垣根を超えて21世紀の身体が向かうべき地平について共に考えます。



写真家「毛利の服」よりネブチューンの衣裳
写真：後上和美 デザイン：毛利臣男



毛利臣男(もうり・とみお)

国内外におけるオペラやバレエ、スーパー歌舞伎、オペラ、能、現代劇などの美術や衣裳デザインを手掛けたと同時に、様々な空間展に美術監督として活躍し、1972年からISSEY MIYAKEのアートディレクターとしてパリコレクションの企画、演出等を担当する。その斬新な表現は国内外において高い評価を得ている。19才で初めて教壇に立ち、京都造形芸術大学、山口県立大学、文化服装学院の客員教授、京都春秋座の芸術監督を務めた。故山口小夜子とはパリコレビューから始まり、毛利臣男が芸術監督を務めた、神戸ファッション美術館での「モーリーの色彩空間=小夜子」(神戸、京都、東京の巡回展)やロンドン・ドルリーレーン王立劇場での「モーリー・マスク・ダンス=AMATERASU」でのコラボレーションが話題になった。現在、「モーリー・マスク・ダンス」や「モーリーのクリエイションクラブ」等の「モーリーのコラボレーション美学」を展開中。

※三代目市川猿之助が新風を吹き込み革命を起こした、スーパー歌舞伎「ヤマトタケル」は1986年(昭和61年新橋演舞場)は哲学者・柳原猛が脚本、毛利臣男が衣裳デザインを担当した。



アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
©Hugo Glendinning



前田圭蔵(まえだ・けいぞう)

多摩美術大学芸術学科卒。在学中にポスター・ハリス・カンパニー設立に参加し、バルコ劇場、スタジオ200などの宣伝協力に携わる。卒業後、世田谷美術館に学芸員として勤務し、その後(株)カンパセーションに入社、プロデューサーとしてメレディス・モンク、ララ・ヒュマン・ステップス、ネザランド・ダンスシアター、ローザスなど数々のダンス公演やコンサート制作を手掛ける。現在は東京芸術劇場のスタッフとして舞台芸術に関わる仕事に従事。



ピナ・バウシュ
©飯島篤(A1オフィス)
日本文化財団



撮影：塚田洋一

鴻英良(おおとり・ひでなが)

1948年静岡生まれ。演劇批評家。東京工業大学理工学部卒、東京大学文学部大学院修士課程修了。国際演劇祭ラオコロン(カンパナーゲル、ハンブルク)芸術監督、京都造形芸術大学舞台芸術センター副所長などを歴任。著書に「二十世紀劇場：歴史としての芸術と世界」(朝日新聞社)、訳書にタデウシュ・カントール「芸術家よ、くたばれ!」(作品社)など。

講師：竹重伸一(たけしげ・しんいち) 1965年生まれ。舞踊批評家。2006年より「テルプシコール通信」「DANCEART」「図書新聞」「シアターアーツ」「舞踊年鑑」、劇評サイト「wonderland」「WL」等に寄稿。現在「テルプシコール通信」に「来るべきダンスのために」という舞踊批評を連載中。

ダンスカフェサロンあうるすぽっと 2017 後期 「ダンスの観方、読み方」

Dance Geography